# Portalegre

**について**

写真: ATshutterstoc

ポルタレグレ
スペインとの国境に近いサン・マメーデの丘（Serra de São Mamede）にあるポルタレグレ（Portalegre）は、中世期を通じて国防における戦略的な重要性を担っていました。アフォンソ3世（D. Afonso III）（1248年～1279年）はこの集落に初めて国王の憲章を与え、その後、非摘出子であるアフォンソ・サンショに譲りました。これに対し、弟であり王位継承者であるディニス（1279年～1325年）は強い不満を抱きました。1299年、すでに王位についていたディニス王はポルタレグレを国王直轄の地位に戻し、城の再建を命じました。

中世期には、フランシスコ修道会もポルタレグレに足場を築き、特にサン・フランシスコ修道院（Convents of São Francisco）やサンタ・クララ修道院（Convento de Santa Clara）が有名です。

16世紀初頭、ポルタレグレ救貧院（Misericórdia de Portalegre）（全国規模の慈善施設）を設置した後、グアルダ司教（Bispo da Guarda）のジョルゲ・デ・メロ（Jorge de Melo）はサン・ベルナルド・シトー派修道院（Convent Cisterciense de São Bernardo）の建設を命じました。すでに行政と経済の重要な中心地であったこの町は、ジョアン3世（D. João III）の下で市に昇格し、さらにポルタレグレ司教区が設置され、同国王によってカテドラルの建設が命じられました。

この決定に併せて、エピスコパル宮殿（Episcopal Palace）と現在は市立博物館になっている司教区の神学校の建設が決定されました。

この町には、サン・ロウレンソ教会（Igreja de São Lourenço）や、アマレロ宮殿（Palácio Amarelo）、ファルコン宮殿（Palácio dos Falcões）、アチオリ宮殿（Palácio Achioli）などの建築物に17世紀と18世紀のバロック様式の特色が色濃く残っています。これらの建物には建造した一族の紋章が記され、この地方独特の特徴である鍛造された鉄による豪華な装飾の見事な例が見られます。

1834年の宗教騎士団の禁止以降、産業革命の始まりに伴ってこの町では再開発が始まり、かつての修道院や宮殿の一部は別の建物に変わりました。

例えば、サント・アゴスティニョス修道院（Convento de Santo Agostinho）は共和国防衛軍の本部となり、サン・ベルナルド修道院（Convento de São Bernardo）やイエズス会サン・セバスチャン修道院（Convento jesuíta de São Sebastião）はポルタレグレのじゅうたんの織物業者に引き継がれ、また最近のことですが、カステロ・ブランコ宮殿（Palácio Castel-Branco）は織物産業がこの町の発展に果たした貢献を詳しく示すポルタレグレ・グイ・フィーノ・タペストリー博物館（Museu de Tapeçaria de Portalegre Guy Fino Guy Fino）になりました。

徒歩で容易に歩き回れるポルタレグレには、ポルトガルの詩人、ジョセ・レジオ博物館（Casa-Museu de José Régio）もあります。郊外では、ノッサ・セニョーラ・ダ・ペーニャ教会（Igreja de Nossa Senhora da

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com

Penha）やボンフィン教会（Igreja do
Bonfim）からの景観に目を奪われます。マルヴァン（Marvão）やカステロ・デ・ヴィデ（Castelo de
Vide）へ向かう道にあるこれらの教会は、いずれもじっくりと見学する価値があります。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com